

広報 すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

8/15
令和5年(2023年)
No.2359

いよいよ到来！
杉並、夏の風物詩。

コロナ禍による中止を経て、今年8月に4年ぶりの開催を予定している東京高円寺阿波おどり。多くの人々が待ち望む同イベントの成功に向けて、今まさに準備に尽力しているのが、東京高円寺阿波おどり振興協会ボランティアチームの皆さんです。今回はその中でも学生部の3名に登場いただき、活動についてお話を伺いました。



特集

人
すぎなみピト

東京高円寺阿波おどり
振興協会 学生部

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | ✍ 編集: 広報課



「広報すぎなみ」は月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ(右二次元コード)をご覧ください。



リーダー 村瀬ちひろさん 地域の方々や仲間との出会いが自身の成長につながっている。

ーボランティアチームに参加したきっかけは何ですか？

私は中央区人形町の出身で、このボランティアに関わるまで東京高円寺阿波おどり(以下、阿波おどり)のことを知りませんでした。振興協会が学生部のボランティアを募集しているという情報が大学のサークルのSNSに流れてきて、興味を持ったことが参加のきっかけです。以前から演劇鑑賞が好きだったので、音響や照明の仕事に携われたらと考えました。

ー初めて阿波おどりに触れて、どのような印象を持ちましたか？

ボランティアを始めた当時はコロナ禍で、阿波おどりの本開催がなく、舞台公演が中心でしたが、目の前で披露される阿波おどりを何度も見ているうちに、その魅力にひかれていきました。踊りはもちろん、プロジェクションマッピングを取り入れた見せ方にはとても感動しました。

ー学生部はどのようなメンバーで活動しているのですか？

今は区内外から集まった高校生10人と大学生3人で編成されています。私がリーダーを務めています。他2人の大学生メンバーとともにチームをつくり上げている感じです。高校生も含め、みんながフラットな関係で意見を出し合える雰囲気づくりを大切にしています。居心地の良い居場所だと感じたからこそ、3年間続けてこられたと感謝しています。



©東京高円寺阿波おどり

ーボランティアを通してどのような気付きや成長を得た感じますか？

高円寺は同じ東京でも地元とは全く異なる

地域・世代を超えて、
多くの人が支えています！

村瀬ちひろ(むらせ・ちひろ) 中央区人形町出身。武蔵大学3年生、20歳。大学のサークルを通して阿波おどりのボランティアチームに参加。コロナ禍での活動を経て現在はチームのリーダーを務める。



空気感で、新たなまちを知る面白さを学びました。また、コロナ禍で人と関わる機会を制限されていた時期に、このチームに参加したことで出会えた友達がたくさんいます。学生部では連への取材も行っていますが、取材を通してさまざまな人たちと出会ったことも貴重な経験です。実行委員の方々など地域や大人と関わる機会が増えたことは、自身の成長にもつながっていると感じます。

ーまもなく開催予定の阿波おどりへの思いをお聞かせください。

初めて本開催の阿波おどりを目の当たりにしますが、舞台公演でもすでに盛り上がるのだから、野外で大勢の観客がいたらどれだけの熱量になるだろう...! と想像もできません。この一つのイベントを成し遂げるために、踊り手・観客・地域の方々と一緒に支えています。そういった「作り上げていく」過程がとても興味深く、今後の人生にボランティアチームでの経験を生かせればと思っています。

高校生と大学生、みんなで意見を出し合い地域と連携しています！

サブリーダー 高山可純さん 踊り手と裏方、両方を知るからこそ運営に生かせることがある。

ーボランティアチームに参加したきっかけは何ですか？

阿波おどりのメイン会場となる演舞場の近くに実家があります。だから阿波おどりは気付けば身近にある存在でした。「かっこいいな」と憧れて、中学生のときに連に所属し、以降は踊り手として毎年参加してきました。一方で、阿波おどりを支えるボランティアチームの存在も知っていて、その中の学生部の活動にも関心がありましたが、踊り手とボランティアの両立は難しいのではと、参加には至らずにいました。ところが大学1年生の夏、コロナの影響で連での一切の活動が休止に。大好きな阿波おどりと関わりが途絶えて寂しいと感じると同時に、何か関わりを持ち続けられないかと考えるようになり、ボランティアチームに参加することを決めました。

ー初めて「支える側」の立場になって何を感じましたか？

踊り手の経験しかなかったので、初めて裏方として阿波おどりに関わること



踊り手の視点で運営にも
役立ちました！

高山可純(たかやま・かすみ) 杉並区高円寺出身。上智大学3年生、20歳。幼い頃から阿波おどりに親しみ、中学生より「東京新のんき連」に所属。ボランティアチームではサブリーダーを務める。

で、さまざまな発見がありました。私にとっては当たり前のような存在の阿波おどりだったけれど、チームのメンバーの中には阿波おどりそのものを見たことがない人もいて、そういった彼らの視点で出される意見はとても新鮮でした。そして、改めて地元の阿波おどりの魅力を再発見するきっかけにもなりました。一方で、私は踊り手として活動してきたからこそ言えること、気付けることがあるな、とも思います。



©東京高円寺阿波おどり

ー踊り手とボランティアの両立は自身にどのような影響を与えましたか？

踊りだけを体験していた以前は気付けなかったけれど、裏方を体験して初めて、阿波おどりは踊り手・観客・裏方が三位一体となって作り上げているものなのだと知ることができました。各地の阿波おどりに見に行くときも、運営する人・支える側の思いにまで心をはせるようになりました。

ーまもなく開催予定の阿波おどりへの思いをお聞かせください。

2日間のうち1日はボランティアとして、もう1日は踊り手として参加する予定です。コロナ禍の数年間、開催を試みても中止せざるを得ない状況を、高円寺だけでなく各地でも抱えてきたと思います。都内で最大規模となる阿波おどりが無事に開催されることで、他の地域にも勇気を与えられたらうれしいです。私自身、思い切り楽しみ尽くします。来場する皆さんもぜひ、思い切り楽しんでください。

高校生メンバー 松田真治さん ボランティアを通して地域に参画していくのは本当に楽しい！

ーボランティアチームに参加したきっかけは何ですか？

これまで高校生活の中で、学校を通して地域と関わるさまざまなボランティア活動に挑戦してきました。その一つとして、阿波おどりの学生部のボランティアを募集していることを知り、やってみようと思いました。僕は高円寺が地元だけど、阿波おどりに関しては祖父母など家族から話を聞いたことはあっても、ちゃんと見たことがありませんでした。生まれ育った高円寺で、地域が大切にしているイベントのサポートに携われるのは感慨深いです。

ーどのような活動を、どのような心がけで行っていますか？

学生部では振興協会が運営するさまざまな阿波おどりイベントのサポートを担っています。僕がよく担当するのは、プロジェクターやパソコンの設置といった仕事。同時に、本番に向けて何をどう進めていくのかなど、メンバーみんなでアイデアを出し合い、準備を進めています。考え方や価値観は人それぞれ違って当然です。だからボランティア活動においては、自分の意見や価値観を押し付けず、まずは相手の意見に耳を傾けること。その上で自分の伝えたいことを適切に伝えていくことを心がけています。



©東京高円寺阿波おどり

ーボランティアを通してどのような気付きや成長を得た感じますか？

こうした活動を体験する以前は、自分自身の成長を実感できる機会があまりなく「ボランティアって参加したところでどうなんだろう?」と思っていました。実際に活動して

ると、知らなかった世界をたくさん知ることができ、身に付けた知識や経験が確実に自身の成長につながっていくのだと気づきました。

ーボランティアで得た経験は、学校生活にも影響を与えていますか？

生徒会や部活動など学校生活におけるリーダーシップの発揮に生かしていると感じます。でも純粋に、ボランティアを通して地域に参画していくことが本当に楽しいんです。自分が暮らすまちにこんな人がいるんだ! という出会いや発見があり、情報交換もできる。幅広い年代の人と関わりながら、学校では学べない幅広い話題に触れられることもとても面白いです。もうすぐ、初めて阿波おどりに参加できることに、今はとてもワクワクしています。4年ぶりで手探りの部分もありますが、いざ始まったらいきなり楽しみたい。観客の皆さんもぜひ一緒に楽しみましょう!

普段の生活では、
味わえない体験ができます！

松田真治(まつだ・しんじ) 杉並区高円寺出身。東京立正高校3年生、18歳。高校ではSDGsを重点的に学ぶコースを専攻。さまざまな地域貢献活動に挑戦している。



東京高円寺阿波おどり 振興協会学生部とは？



同振興協会学生部は、東京高円寺阿波おどりを支える担い手として、高校生・大学生で組織されています。踊り手・観客・地域の方々、スタッフ・ボランティアなど東京高円寺阿波おどりに関わる全ての方々と共に、ぞめきでにぎわう高円寺のまちの未来を築いていきたいという思いで活動を続けています。「阿波おどり・ボランティアに興味がある」「高円寺が好き」などといった高校生・大学生の皆さん、ぜひ一緒に活動しませんか？

☎東京高円寺阿波おどり振興協会 ☎3312-2728



interview

東京高円寺
阿波おどり
振興協会 学生部